

新たなキャリア 臨床検査医！



「臨床検査専門医」は、
日本専門医機構の19領域の基本領域の一つ
2024年の専攻医数 **18人**
(日本専門医機構 採用総数 9496人)



あなたの手で未来の検査をつなぐ

臨床検査医学という学問分野があります。
これは、基礎医学と臨床医学を結ぶ掛け橋となる総合的な学問です。
臨床検査専門医とは、臨床検査を通して診断や治療に役立つ検査結果と関連する情報を臨床医に提供し、臨床検査全体を管理する医師のことです。
具体的には、診断コメントを作成したり、臨床医からのコンサルトに対応します。
また、臨床検査の精度、品質管理の責任を担う医師です。



臨床検査の魅力

・他の基本領域に比較して時間管理がしやすくマイペースに仕事ができる
→当直業務などが少なく、勤務時間外のプライベートの充実・家庭円満等を重視する方にもお勧めです

・多様なキャリア形成が可能

→臨床検査は検体検査・生理検査・感染症検査・輸血検査はもちろんのこと感染管理・病院経営などにも貢献できる(臨床検査を学ぶことにより診療に幅をもたせます)
→これまで培ってきた病理・内科・外科などのキャリアを臨床検査に利用してさらなるキャリアを形成(ダブルボードも可能！)
→臨床のみならず研究・教育への貢献も可能
→大学病院の病院長・医学部長も輩出しています

・女性医師のより良い働き方

→産休・育休などを契機にキャリア転向している先生も多い
→女性医師のライフイベントに合わせた柔軟な働き方も可能
→研究志向の女医のキャリアにも向いている(女性の教授も多い)



・セカンドキャリアにもおすすめ

→臨床検査医の大半はセカンドキャリア(病理・内科・外科・基礎など)であり、多くの先生がキャリア展開している

・カリキュラム制(単位制)での専門医の取得も可能

→出産・育児・研究と並行・定職を持たずに専門医の取得を目指すなど、多様な医師に対応



一般社団法人
日本臨床検査医学会
Japanese Society of Laboratory Medicine

学会サイトQR



臨床検査医の役割と魅力

日本臨床検査医学会・日本臨床検査専門医会



1. ひとあじ違った総合診療

ご自身で生理と検体検査を手がけられている医師は、あまりおられないのではと思います。多くの施設では、それらは臨床検査技師さんが担っておられます。このことは技師さんに診断を委ねていることになりませんか？ もし仮に・・・あなたの臨床推論・病態診断力に検査技師さんの検査能力を加えるとどうなるでしょうか？ 大幅な診断能力向上が見込めるはずです！

2. すべての診療科との協力関係

臨床検査結果を通し、診療科と検査部の間で多くの情報交換が毎日行われています。臨床・研究において、臨床検査医はチーム医療の中心にいるとも言えます。臨床検査医が検査技師とともに診療科医師と顔の見える協力関係を構築することで、より正確かつ気軽に情報交換ができるようになり臨床現場の診断や治療に大いに貢献することができます！

3. 臨床検査医・臨床検査専門医の将来性

AI（人工知能）の進歩によって医療現場、特に診断領域は大きな変貌を遂げる可能性があります。検査領域でも“AIを利用した新たな検査方法”が必要とされる時代になるでしょう。臨床検査専門医であれば検査の精度管理や検査法開発によって“検査のエキスパート”としてサポートしていくことが可能です。

4. 新型コロナウイルス対策で大活躍した臨床検査と検査医

COVID-19の感染対策では、臨床検査を専門とする医師が見直される機会となりました。抗原検査・抗体検査・PCR検査や、感染性検体の扱いについて、十分な知識をもつ検査医の指導と精度管理のもと、感染症専門医やインфекションコントロールドクター（ICD）と検査室が協力することで新型コロナ対策に効果が発揮されたと考えます。

5. すべての検査に精通した臨床検査専門医を目指そう

すべての分野（血液、生化学、微生物、超音波、生理機能、一般検査、遺伝子検査、病理検査）に精通し“Doctor of doctor”と呼ばれるのが、臨床検査専門医です。いわば“検査のエキスパート！”表舞台にでることはあまりありませんが、病院の中核である検査部の要として活躍しています。現在、次世代シーケンス（NGS）の登場によって遺伝子に精通した臨床検査専門医が重要とされます。

6. すぐれたワークライフバランス

臨床検査医は一部を除き主治医として入院患者を受け持つことはありません。このため仕事のオンオフがはっきりしています。オフの時間は、研究をするのも、家庭のことをするのも、自分の采配で決められるのが臨床検査医の大きな魅力です。

研究支援

◆臨床より基礎研究に興味がある

マルチオミクスなどの基礎研究

◆臨床の前線で研究を続けたい

検査情報解析・検査機器の検証などのドライラボ研究

勤務支援

◆ライフイベントの最中に基本領域の専門医を取りたい

臨床検査専攻医（+検査に関わる各種研究）

◆病棟業務はこなせないけれども大学のキャリアを続けたい

脳波（精神科・神経内科・小児科）

超音波検査（循環器・消化器）

骨髄像判読（血液）

+ 社会発信・啓発活動

働き方改革・病院収益（加算）の両方に貢献

臨床検査医とワークライフバランス

- ・ 病棟業務や当直業務が少ない！
- ・ もちろん希望次第で臨床も続けられる！
- ・ これまでの臨床経験やキャリアを活かした専門医にもなれる！
- ・ 人間ドック／健診医、超音波専門医、遺伝専門医などのキャリアアップもできる！
- ・ 臨床検査専門医は売り手市場！
- ・ 中央診療部門であり、診療科と共同して研究を発展しやすい！
- ・ 臨床検査技師さんなど多職種連携から学ぶチャンス！



第二のキャリアとして臨床検査専門医を考えてみませんか？
～復職・転職を考えている女性医師の方へ～



女性医師のリアルコメント

臨床経験を5年積み、海外留学、育児休暇の後より臨床検査に携わり、日々の業務をこなすうちに、系統立てて臨床検査について学びたいと考え専攻医を選択した。検査部での業務を続けながらの研修で充実した日々を送っています。臨床検査は時間の調整がしやすく自分のペースで仕事ができる上、外科系・内科系を問わずに専門医が目指せるため、性別やキャリアに関わらず専門性を高めることができるという強みがあるのでお勧めします。

…女性医師から見る臨床検査医のメリット…

- ・ 病棟の業務がない！
 - ・ 手術がない！
 - ・ 当直がない！
 - ・ 研究に従事できる時間を増やせる！
 - ・ 子供と一緒に過ごす時間を確保できる！
 - ・ 趣味などプライベートに使える時間を確保できる！
- という声も寄せられています。



第二のキャリアとして臨床検査専門医を考えてみませんか？
～キャリア転向を考えている医師の方へ～



臨床検査科という診療科があります。中央診療部門として、正確な検査結果を報告することで、多くの診療科を支える存在です。「検査科」「検査部」「臨床検査科」などの標榜については施設によっていろいろな呼び方をされています。

臨床検査専門医は中央診療部門として勤務する場が多く、臨床検査専門医とは、自分にあった専門性を活かして仕事と生活のどちらも充実させて相乗効果を生みだせるような「ワークライフシナジー」が実現できる専門医です。キャリア転向を考える医師の方に新しい進路の選択肢の一つとして、臨床検査を知っていただきたいと思います。臨床検査専門医の大半がキャリア転向であり、教授・検査部長として活躍しています。内科医などで働きながら検査専門医をとることで、病院内でのプレゼンスが上がるとともに、自身の診療技術の向上にもつながります。



Q 「臨床検査専門医」には、どんなメリットがありますか？

A 検査室の管理・運営において必須の資格ではありませんが、臨床検査専門医の資格をもつ医師は、検査室を管理する上で、十分な能力があるとみなされます。検査室を管理する常勤の医師がいる場合、「検体検査管理加算」を算定できるため、検査室専任医師のニーズはかなりあります。臨床検査専門医を取得することで、アピールにつながります。

Q どんな勉強をしたら、臨床検査専門医になれますか？

新専門医制度は、初期臨床研修修了後の医師が3年間専門研修することを基本としており、当領域でもそれに沿ったプログラムを用意しております。しかしながら、当領域には他科で活躍されている医師の参入の可能性が高いことから、そのような方には毎日の研修を3年間ではなく、1～2日の研修を3年以上などのオプションを相談の上、準備することは可能です。詳しくは学会に相談ください。

Q 研修中も、臨床はできますか？

A ある程度は可能だと思います。検査室では臨床検査の研修が主となりますが、多くの医師は関連部署や関連病院で、週1～2回程度の外来診療を行っている医師もいます。診療科のカンファレンスに参加している場合も多いです。病理・内科などとダブルボードも可能です。

Q 研修中も、研究できますか？

A 研究も可能です。施設により、研究内容や環境は異なります。

大学病院の場合、多くの医師は検査業務と並行して、様々な研究を行っています。検査部は横断的な部署であり、検体や検査データを用いた臨床研究に取り組みやすい環境にあります。研究室によっては、より基礎的な研究も可能です。

Q 他の専門分野との両立は可能ですか？

A 他の専門分野との両立は可能だと思います。内科系サブスペシャリティをもち、臨床検査専門医になった場合、臨床経験を維持できるかどうかは、気になるところかもしれませんが、病棟業務はありませんが、勤務施設で外来診療が認められる場合には、臨床的な能力をある程度維持することができます。検査を主として担当することで、幅広い診療科の医師とやりとりし、今までになかった経験・知識を得ることも可能です。

Q 他領域の専門医取得は必要でしょうか？

A 他領域専門医を持つ臨床検査医が多いのは事実ですが、最初から臨床検査専門医を目指した研修を開始し、臨床検査専門医として活躍されている先生も多数います。



臨床検査専門医がわかるQ&A

2024年度臨床検査領域における

専門研修プログラム 基幹施設 一覧

Q どこで研修できるのか？

A 多くは大学附属病院またはそれに匹敵する規模の病院です。臨床検査領域では約80の基幹施設が認定されています。(現在のところ臨床検査専門医はシーリングは行われていません)

